

『信仰による慰め』 (要旨)
 聖書箇所：I テサロニケ 3:6~13

【1】 良い知らせ

使徒パウロは苦難の中にあるテサロニケ教会を励ますため、自分の代わりにテモテを派遣しました。彼は自分の役割が、テサロニケ教会のために、昼夜、熱心に祈り、信仰を強め励ますことだと自覚していました。ところが、テサロニケ教会を訪問したテモテの報告は、むしろパウロを励ますものとなりました。

パウロは、それを「良い知らせ」(ユ-アングリ-)であったと言います。この箇所以外で、パウロが「良い知らせ」という語を用いるのは、神様の救いの知らせ、すなわち「福音」を語る場合です。パウロにとってこの「知らせ」は、特別な意味をもっていたのです。彼はテサロニケの教会の「信仰と愛について」の「良い知らせ」に、神様の働きを確認しました。彼は「テサロニケ教会は大変だけど頑張っている！」と言いたかったのではありません。神様のテサロニケ教会に対する真実と力を確認し「良い知らせ」と喜んだのです。

【2】 信仰による慰め

何とかテサロニケ教会を励まそうとしていたパウロたちですが、彼らも慰めを必要としていました。

「こういうわけで、兄弟たち。私たちはあらゆる苦悩と苦難のうちにありながら、あなたがたのことでは慰めを受けました。あなたがたの信仰による慰めです。」(I テサロニケ 3:7-8)

ここで言う「苦悩」は、息苦しくさせるような苦しみやトラブルそして抑圧などの状態にあることです。次に「苦難」は、迫害や虐待に苦しんでいることを示しています。どうやらパウロたちの置かれた状態は、平穏無事な状況とは程遠かったようです。彼らは心挫く出来事に見舞われていました。ピリピ、テサロニケそしてベレアでの宣教は強制的に中断させられ、アテネでの回心者はわずかでした。コリントでのパウロは「弱く、恐れおののいて」(I コリント 2:3)いました。

そうしたパウロたちを慰めたのが、テサロニケの信者の堅く立つ信仰でした。

パウロたちは、テサロニケの信者を祈り励ました。それと同時にテサロニケの信者の信仰

が苦悩と苦難のうちにあるパウロたちを慰め、励ましていたのです。

【3】 欠けがあっても

パウロたちはテサロニケ教会の信者のことを覚え、神に感謝をして喜びました(9)。でもそれは彼らが非の打ち所がない信仰者であったからではありません。実際に信仰の「不足」(あるいは「欠陥」や「短所」)を抱えていました。

* 「補うことができるように」(カトリ-)とは、本来の姿に修復する。たとえば、網を「繕う」など(参照:マタイ 4:21)

テサロニケ教会は、たしかに色々課題を抱えていました。しかし、そうした欠けがありながらも、パウロたちに「信仰と愛についての良い知らせ」をもたらしました。パウロたちは、彼らの堅



図1 金継ぎ (この写真の作成者は CC BYSA のライセンスを許諾されています。)

く立つ信仰に慰めを受けたのです。
 → 「金継ぎ (金繕い) ~ヒビや割れ ~ 「景色」

【4】 主イエスの再臨の時に

テサロニケ教会は、地域の信者に信仰の良き模範を示しましたが、まだ若くて未熟な教会でした(4:1-8)。もしもパウロたちが彼らの信仰の不足を数え上げたならば、幾らでも見つかったでしょう。しかしテサロニケ教会は、そうした欠けを持ちながらも、信仰と愛に生きる姿を通して、苦悩と苦難に押し潰されそうになったパウロたちを慰めたのです。

テサロニケ教会のように特定の時代、場所にある「地域教会」は「欠け」があります。しかしそうでありながら教会はいわゆる人々の集まりと異なります。それは「神がご自身の血をもって買い取られた神の教会」(使徒 20:28)だからです。ゆえにパウロは祈ります。「(主イエスの再臨の時に) 私たちの父である神の御前で、聖であり、責められるところのない者としてくださいますように」(13)と。